

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520111

研究課題名(和文)スマトラにおけるシュリーヴィジャヤ・マラユに関する美術史的調査研究

研究課題名(英文)Art Historical Research on Malayu of Srivijaya empire in Sumatra

研究代表者

伊藤 奈保子 (ITO, NAOKO)

広島大学・文学研究科・准教授

研究者番号：20452625

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：スマトラ島南部に位置するジャンビとパレンバンが石像、鑄造像共に充実し、遺跡群等から7世紀以降、ジャンビを中心とする地域にマラユと考えられる都が置かれていた可能性が高い。中部地域のムアラ・タクス遺跡に密教法具や尊像等の出土記録がみられ、文献等の検証結果よりスマトラ中部から南部にかけて仏教、特に初期密教の信仰があったものと推察される。更にジャンビ出土の鑄造像はジャワ島よりもインドのパラ朝かマレー半島のドバラパティ様式に近いと考えられ、またスマトラ北部に南インド系の作品が確認できる事等から、スマトラはインド及びマレー半島から文化が伝来し混在していた地域であったと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The research has revealed that the varieties of stone statues and sculptures are found in the heritages of Jambi and Palembang in southern Sumatra. From these heritages it is probable that the capital of Srivijaya was placed around Jumbi in southern Sumatra after the seventh century. Although the exact whereabouts are unknown, the capital could be the place called Malayu. The records of Buddhism ritual implements and statues have also been excavated in the heritages of Muara Takus in the central Sumatera. Combined with further textual analysis, these findings suggest the practice of Buddhism, particularly early Tantric Buddhism from central to southern Sumatera. Furthermore the gilt bronze statues excavated from Jumbi seem to have the styles of Pala in India or Dvaravati culture from the Malay Peninsula. The fact that the works in northern Sumatra seem to have influence from southern India tells that the cultures both India and Malay Peninsula were transmitted and coexisted in Sumatera.

研究分野：美術史

キーワード：シュリーヴィジャヤ マラユ ジャンビ 密教

1. 研究開始当初の背景

(1)7世紀頃からマラッカ海峡を中心に東西貿易で重要な位置を占めていたシュリーヴィジャヤ (Srivijaya) は、その勢力範囲や都、また宗教形態等が未だ明確にされていない。先行研究からスマトラ (Sumatra) はその範囲内に在り、都マラユ (Malayu) が置かれていたとされるが、詳細は不明である。

(2)本研究者は、インドネシアの宗教美術を美術史の視点から考察している。ジャワ島を中心に約1,000 軀の鑄造像と、法具 (密教の儀礼に用いる道具: 金剛杵、金剛鈴等) 約600 例の分析を行ったが、スマトラ南部出土とされる鑄造像は、ジャワ (Java) 島の作例と異なるシュリーヴィジャヤの流れにあるものと推察した。スマトラは文献資料が少なく、美術史の視点からの考察もほとんどされていないのが現状である。

(3)そこで、スマトラに焦点をあて、調査研究を行うことにより、シュリーヴィジャヤの一解明を試みることにした。

2. 研究の目的

(1)スマトラの宗教美術の形態を、美術史的調査研究を行うことにより明らかにする。

(2)(1)の研究成果から、シュリーヴィジャヤの都、マラユとスマトラの関連性を考察する。

3. 研究の方法

(1)スマトラの各博物館、資料館、研究所、またスマトラの作品が所蔵されているジャカルタ国立中央博物館において、スマトラ出土の神像、仏像群、法具等の徹底的な資料収集を行う。それらの位置を地図上で的確に確認し、様式等について詳細な分析をする。

遺跡については北部のパダン・ラウス (Padang Lawas)、中部のムアラ・タクス (Muara Takus)、南部のムアロ・ジャンビ (Muaro Jambi) を調査地に、寺院壁面の連続的浮彫 (レリーフ) 出土品等を確認する。

(2)スマトラと関連する地域として、ジャワ、バリ、マレーシア、タイ、カンボジア、ラオスについて調査を行う。各博物館等で神像、仏像群、法具の調査、また遺跡では寺院壁面の連続的浮彫 (レリーフ) を研究対象に考察を行う。

(3)(1)(2)についての調査方法は、事前に許可を得られた館については展示のガラスケース、収蔵庫から作品を適宜移動し、簡易スタジオにて写真撮影、測量、調書を作成。測量はミリ単位を基本とし、型が復元できるよう精密に行う。調書は原所在地、形状、図像等を記述する日本美術史の方法論を用い、撮影はデジタルカメラによる証明撮影を基

本に、作品によっては損傷が及ばないようにストロボを用いる。基本データ収集後は、図像解釈、用途解明、制作年代、制作地の推定、出土地のマッピング、文献資料との照合を行う。図版と調書は広島大学文学研究室に保管し、DVD にまとめ、調査先の博物館等に寄贈する。

(4)スマトラの調査地: 北部地域が Padang Lawas 遺跡群、Medang 州立博物館、Biaro Bahal 遺跡、Biaro Bahal 資料館、中部地域が Muara Takus 遺跡群、Adityawarman 博物館、南部地域は Muaro Jambi 遺跡群、Jambi 州立博物館、Muaro Jambi 遺跡考古学資料館、義浄記述の僧院址、Palembang 地域の Balaputra Dewa 国立博物館、Sriwijaya 博物館、Sultan Muhammad Badaruddin 博物館、Srivijaya 考古学研究所等。

4. 研究成果

(1)スマトラ調査から、現状で南部地域のジャンビ (Jambi)、及びパレンバン (Palembang) の二地域において、石像、鑄造像、遺跡等が充実していることが確認できた。またスマトラの遺跡に関しては、残存する建造物の保存状態が極めて悪く、崩壊、復元がされ、当初の様式を推しはかることが困難であることが判明した。建造資材はジャワと異なり、焼結煉瓦が多数を占め、石造は像やマカラ等に限られることが確認できた。また像は、仏教、初期密教像が主にみられ、石像の多くが2m 程の巨像で顔面が四角く、全体に肉厚で動きがほとんどみられないことが特徴として挙げられ、守門像は丸彫りの忿怒形が確認でき、東部ジャワの流れに近いものとも考えられた。鑄造像はジャワに類似する例も多いが、中には約50cm と比較的法量が大きく、精緻な造りの作品もみられ、顔面の様式はインドのパラ朝かマレー半島のドバラバティ様式に近いものと考えられた。

(2)主要と考えられるジャンビ地域について述べると、像はジャカルタ国立中央博物館所蔵の如来立像 (No.233a/ 172cm/7~8 世紀頃か)、州立博物館では金銅仏で四臂観音菩薩立像 (No.04.093/ 39.4cm/10~11 世紀頃か) や四臂菩薩立像 (No.04.094: 29.0cm) 等をはじめ現段階でスマトラから出土している作品の数はこの地域が最多である。特に No.04.094 像はパラ朝かマレー半島のドバラバティ様式に近いものと推察された。遺跡に関して広い地域に寺院が点在しており、ムアロ・ジャンビ遺跡群は、約12 km 内に寺院が点在しており、代表的な9つの寺院 (Candi Gedong, Gumpung, Kedaton, Tinggi, Raja, Kembar Batu, Astana, Kota Mahlingai) 等を確認したが、いずれも崩壊と復元が激しい。寺院入口と外門の入口が直線でつながらず多少ずれている例もあり、今後の課題といえよう。スマトラのなかでも最大の遺跡であり、

バタンハリ (Batang Hari) 川からも近いことから、都として栄えたマラユである可能性が高いものと思われる。

(3) パレンバン地域はジャカルタ国立中央博物館所蔵の古マレイ語で書かれた石碑 (No.155/総高 225.0cm×最大幅 148.0cm・7世紀頃か・Batu 湖) 1基が出土しており、シュリーヴィジャヤ王への服従について記されている。またジャカルタ国立中央博物館に石造観音立像 (No.247/D215: 186cm/7~8世紀頃か)、鑄造像は弥勒菩薩立像 (No.6025/C.149:25.0 cm /9世紀頃か)、八臂観音菩薩立像 (No.6024/53.0cm/9~10世紀頃か)、弥勒菩薩立像 (No.6023/40.0 cm /9~10世紀頃か) がコムリン川 (Komerling) から出土し、それらが優品であることから、この地域もまたシュリーヴィジャヤの範囲内にあったものと推察される。

(4) その他の地域については、北部メダン (Medang) 州立博物館には、南インドと考えられる仏坐像やヒンドゥー系の像、またアラパチャナ等のジャワと同系の鑄造像が確認できた。パダン・ラウス遺跡群については Candi Bahal や Candi Sipamutung、Candi Tandihat、Candi Sangukilon 等があるが、Bahal の基壇が彫刻として最も状態が良く、獅子とヤクシャと考えられる像が浮彫されている。Bahal 収蔵庫からは石造守門像が確認された。

この北部、Gunung Tua からはジャカルタ国立中央博物館所蔵の三尊形式の鑄造像 (No.B-626d: 1024 か 1039 年制作) が出土しており、その様式は南インドの系統を帯びているものと推察される。

中部地域のムアラ・タスク遺跡にはスマトラに残存する唯一の仏塔があり、11~12世紀頃とされるが現在当初の塔を覆うように修復がされている。現地資料に密教儀礼に使用される金剛杵、ターラ立像の出土が記載されている。また西部では、Rambahan 出土の不空羅索観音 (No.D198-6469.1286/161cm/1286年か1347年) が出土し、台座にジャワのシンガサリ王朝のクルタナガラ王がマラユに贈ったと記されており、この地域もマラユとの関係が考えられるが、また Sungai Langsat からはマラユの王 Adityavarman とも称される 4m を越えるパイラヴァ像 (14世紀頃か) も見つかっていることからこれらの地域もマラユの可能性を否定できないが、現段階で一帯において他に像や遺跡等は見つからない。よって現状でマラユであると断定することは難しいものと思われる。

(5) 以上、スマトラの遺跡、出土品から考察すると、ジャンビとパレンバンの二地域に仏教、初期密教が栄え、また中部地域のムアラ・タスク遺跡からは密教に関する法具や像等も出土している記録がみられ、文献等と検

証した結果、スマトラ中部から南部において仏教、初期密教、特に金剛界系密教も信仰されていた可能性があるものと考えられる。スマトラで確認できた石像は、いずれも約 2m の仏教に属する巨像であることから、その信仰の篤さがうかがえる。鑄造像のジャンビの作品はインドのパーラ朝か、マレー半島のドバラバティ様式に近いと考えられ、ジャワ島の流れではないものと推察される。パレンバン地域の像もジャワとは異なり、同じくマレー半島の作品に類似するものと考えられる。この他、南インドの流れをくむ作品がスマトラ北部から確認できたこと等から、スマトラはインド及び、マレー半島から文化が伝来し、混在した地域であったものと考えられる。また、シュリーヴィジャヤの都とされるマラユについては、今回の調査から、7世紀頃からスマトラ南部、ジャンビを中心とした地域において展開していた可能性が高いものと推察する。

(6) 今後の展開としては、スマトラを中心にシュリーヴィジャヤについて研究を行っていきたいと考える。まずスマトラから出土した像の詳細な分析を行い、その図像、様式を、マレー半島、及びインドの作例と比較検討し、伝播ルートを考察したい。スマトラ北部 Gunung Tua 出土の三尊形式の鑄造像と、南インドの作品群との比較、またジャワのチャンディ・ムンドウ (Candi Mundut) の三尊像と関係が考えられる西インドのエローラ石窟などの図像との検討も必須である。この他、東南アジアのシンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ラオス等についても美術史的調査研究を行いたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

1. Naoko Ito, Study of a Four-armed Gilt Bronze Standing Avalokitesvara Unearthed in Jumbi, South Sumatra, 印度學佛教學研究、査読有、第63巻第3号 (通巻第136号) 2015年。pp.1333-1340, pp.1477-1478.

[学会発表](計 2件)

1. Naoko Ito, The Trace of Tantric of Buddhism in Srivijaya: Through the Analysis of Statues and Instruments, International Seminar Srivijaya in context of Indonesia, The national center of Archaeology of Indonesia, 22th August 2014, Indonesia.

2. 伊藤奈保子、北スマトラ、ピアロ・パハ
ル周辺の守門像について、広島史學研究會、
2014年10月26日、広島大学。

〔図書〕(計 1件)

1. 監修中川武、溝口明則、中央公論美術出
版、伊藤奈保子 他、コー・ケーとベン・メ
アレア：アンコール広域拠点遺跡群の建築学
的研究、2014年、240頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 奈保子 (ITO, Naoko)
広島大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：20452625

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

朴 亨國 (PARK, Hyounggook)
武蔵野美術大学・造形学部・教授
研究者番号：00350249